

高性能保冷箱で新システム

0度以下150時間保持

朝日森運輸 内部表面を特殊加工

朝日森運輸(本社：千葉県成田市、竹蓋雅幸代表取締役社長)は高性能保冷箱を使用した新梱包システムを開発した。内装用使用する発泡スチロール(EPS)箱の内部表面に特殊加工を行い製品化し、外装用の段ボール材との併用で保冷効果を上げた。同社の実験によると、0度以下を保持する時間が150時間となり、既製品のEPS箱のみを利用する場合と比べて倍増した。保持時間の大幅な延長に伴い、輸出航空貨物の梱包で利用する際のネットワークが大きく広がる。既にフォワーダーから引き合いがある。

高性能保冷箱のサイズや個数はオーダーに応じる。1個からの発注も可能だ。少量の場合の納品は早ければ

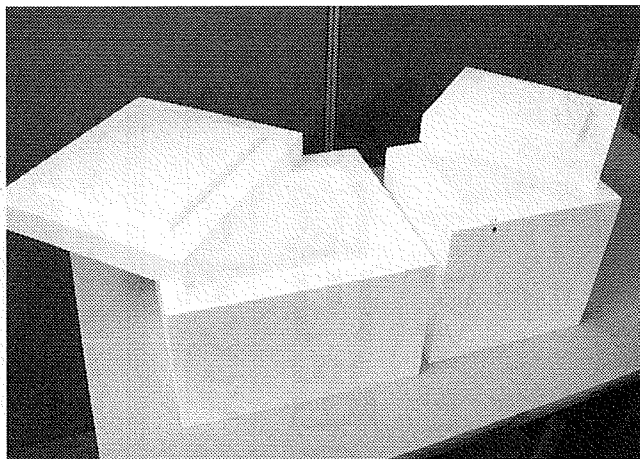
1、2日後にできる。汎用タイプの用意もある。また事前にテスト依頼(一部有料)を受けた場合は、終了後に温度変化の推移につ

いてのデータを要望に応じて無償提供する。使用する接着剤は日本の基準に沿ったもので、人体への影響はないという。そのため生鮮貨物での利用も問題ないとする。

既製品のEPS箱を利用して長時間の輸送をする場合、内部の保冷状態を維持するため例えば、到着した空港や経由する空港で一度

開梱し、ドライアイスを詰め直す(リ・アイス)作業が必要になる。ただ、開梱時には一時的に内部の温度が変化する。今回開発した高性能保冷箱を利用すれば、これまでリ・アイス作業が必要だった仕向地にも開梱なしで輸送することができるようになる。

開発は現在も進めており、目標は200時間の保冷保持だ。竹蓋雅幸代表取締役社長は「低迷している航空貨物市場ではあるが、高い輸送品質への要求は年々、高まっているので、保冷輸送時間にお困りの会社にご貢献できればと考えている」とする。



発泡スチロール箱の内部表面に特殊加工を施した。朝日森運輸はさらに開発を進め、200時間の保冷保持をめざす

同社は8月に実験を行った。常温(平均気温26度)